

現在の天津

天津のあゆみ

市街化の動向

●人口の推移

天津市の人口は、昭和 40 年頃までは緩やかに増加していましたが、旧瀬田町、旧堅田町との合併もあいまって、昭和 40 年代以降に急激に増加し、その後も高い人口増加率を維持してきました。

平成 18 年には旧志賀町との合併を行い、2007 年（平成 19 年）現在、人口は約 33 万人となり、増加率は以前よりもやや低くなってきているものの引き続き増加傾向となっています。

●市街地の拡大状況

昭和 40 年代前半までは、天津駅周辺から膳所、石山にかけての一带に市街地が広がる他は、田園のなかに古くからの集落が点在する状況にありました。

しかし、昭和 40 年代後半以後、平地部の市街化のみならず、山麓部での大規模な住宅地開発が進み、主に、琵琶湖湖岸にそって北方及び東方に急速に市街地が拡大しました。

この様子を人口集中地区（D I D）の拡大状況でみると、1965 年に 7.1km²であったものが 1975 年には 19.2km²と昭和 40 年代を経て 2.7 倍となりました。その後も拡大し続け、2005 年には 36.3km²（約 5 倍）となっています。

●建築動向

天津市では、1996 年から 2005 年の 10 年間に累計で約 24,000 件の建築確認が行われています。景気変動、住宅減税などの影響により、各年で大きな増減変化がみられますが、近年では中部地域における確認件数が安定的に推移しており、他の地域に比べ多くなっています。

また、高層建築物（6 階以上の建築物）の確認申請件数は、同期間の累計で約 130 件であり、10 階以上の建築物が約 4 割を占めているなど、市街地に占める高層建築物の割合が増加してきています。

今後の課題

天津市では、昭和 40 年代以降の急激な都市化により、市民生活の利便性や安全性は飛躍的に高まったものの、山麓部の緑地環境や湖岸部の水辺環境、市街地の歴史的環境が失われてきました。山並みや琵琶湖と一体的に形成される歴史的環境は天津市を特徴づける重要な地域資源であり、今後ともその保全に積極的に取り組んでいくことが必要です。

また、農地などを侵食するかたちで小規模な住宅開発などが無秩序に進んだために、道路や公園などの都市基盤が十分に整っておらず、決して良好とは言えない居住環境を形成している地域も見られます。そのため、既成の市街地や現在市街地化が進んでいる地域において、計画的な土地利用の誘導、市街地環境整備の推進などにより、安全で快適な居住環境の整備を進めることが必要です。

一方、古くより城下町、港町として栄えてきた市の中心部では、オフィスビルやマンションなどの中高層建築物の建設が進んでいるものの、滋賀県の県庁所在都市としての高い中枢性を発揮するには、より一層の高度利用が望まれているところです。しかしながら、高度利用を進めることは、旧東海道筋などに残された歴史的まちなみを喪失することにも繋がることから、高度利用、歴史的環境の保全を総合的に考え、県都にふさわしいまちづくりを進めていくことが必要です。

さらに、商業施設の魅力不足による購買力の流出、観光入り込み客の伸び悩みなど、経済活動の低迷が問題となっています。特に、これからは魅力のある都市が人や資金を引き付け、経済活動を活発化し、活力を高める時代であることから、人々が訪れたい、住みたいと思えるまちづくりをすすめていくことが最も重要な課題です。